

——中学生用——

共生社会理解のための動画

「みんなちがってみんないい」

活用案

2021/01/22 Ver.1

この動画の使い方

最初に、全ての人がマイノリティになる可能性が有ることを知るための簡単なチェックシートを行います。(回答に、1と5が多ければ、その人はマイノリティである可能性が否定できないということになります。)その後、動画を見てワークを行い、人はそれぞれ違いがあり、その違いが社会を形成していることを学習していきます。

ワークはあくまでも提案であり、先生達の考えや指導方針、クラスの状況により、それ以外のワークをご活用いただくことで、より効果的に理解を深めることが出来るようになります。

何もかも出来る完璧な人などいません。自分のことも他人のことも出来ることを認めあえる関係性や習慣を身につけることに役立つように考えて作られている教材です。

また、近年問題となっている、障がい児、特に発達障がい児の学校での受け入れについて、関西学院大学の丹羽登教授に解説して頂きました。この教材をより効果的にご利用いただくためにも、チャプター6, 7にある動画を先にご覧ください。

こちらの教材は、「動画を見る」と「ワークショップ (WS) を行う」の二部構成になっています。指導したいことの状況により、動画視聴の前または後にワークショップを行います。ワークショップでは、生徒同士の発言を促し、自主性を重んじて、先生方はファシリテーターとしてサポートしていきます。

動画活用のヒント

こちらの教材から以下のようなことを学習することが出来ます。

1. 誰にでも得意・不得意はある。
(自分の得意は誰かの不得意に値することもあるので、どうすればそれを補い合えるかを考えます。)
2. 誰もが、誰かに助けられ支えられて生きている。
3. 感謝の気持ちを忘れない。
4. 最悪に見えることが最良のことになる可能性がある。
(ピンチはチャンス)
5. 人と違っていてよい。自分には自分の良さがある。
6. 弱点や欠点に見えることも、それをうまく使えば誰にもまねできない強みになる。
さかなくん <http://www.sakanakun.com/>
東田直樹 <https://naoki-higashida.jp/>
似鳥昭雄 <https://mamanochiwatashi.com/nitoriakio/> 等
7. 見え方、聞こえ方は人それぞれである。
(正負はないことを知ることが多様性理解につながります。)
8. 一番になれなくても、好きなことを一生懸命やるのが素敵なことである。
(どうせやったって、レギュラーになれない、あの子の方がうまい、等を気にせず好きなことを一生懸命頑張れるのが子ども時代であること、そしてそれをするから強かつ優しくなれることをガンバ大阪の選手たちの言葉から学ぶことができます。)
9. マイノリティとマジョリティ
(人は、仲間外れを作りがちですが、誰もがマイノリティになる可能性があります)

ります。仲間外れを作るのではなく、どうしたらその人とも仲間としてやっていけるかを考えます。)

10. 欠点は伸びしろである。

(欠点のない人間はいないので、欠点=悪い物と決めつけずに、欠点があるからそこを良い方向に伸ばすことで最強になれることを学べます。)

11. 幸せの価値観

(障がいがある人も不幸を感じずに生きている人もいます。五体満足でも不満だらけで不幸せを感じながら生きている人もいます。どこに違いがあるかを考えることが出来ます。「出来ないことを数えるよりも出来ることを数える」というパラリンピックの精神がここで役立ちます。)

12. 困っていることを周囲に伝えてよい。

(勉強でもスポーツでも、困っていても伝えられずに、そこで立ち止まってしまふ子供たちも多くいます。勿論、家庭の問題もあると思いますが、それを伝えてもからかわれない環境を作ることにつなげていけます。)

13. 共生社会について考える。

(障がいがある個人の問題で、その個人が頑張っ克服するものではなく、社会が全ての人にとって住みやすい状態になることが共生社会です。そのために自分たちの出来ることを考えたり、街がどうなっていたら良いかを考えたりすることが共生社会への一歩でもあります。)

これ以外にもたくさん学習できることがあると思います。この教材を使う年齢やタイミングで色々工夫して頂けたら嬉しいです。

【動画を使ったワークショップの手順】

①動画の閲覧

ワークショップに該当する動画を DVD のチャプターより再生してください。

②ワークショップ（WS）

ワークショップは、必要に応じて行ってください。ワークショップの提案(参考例)がありますが、形式は自由です。先生方が抱えるテーマを元にアレンジしてご使用ください。

【ワークショップ（WS）時のファシリテーション時の注意点】

先生が答えを出すのではなく、生徒が答えを出せるように導くことがポイントです。合意形成や相互理解をサポートし、ワークショップの活性化・生徒同士の会話を促進させてみてください。

チェックシート実施

WS 障がい・自由・不自由などについてのそれぞれの考えをチームでまとめる、又は話し合う。

CHAPTER1 ガンバ大阪選手自己紹介動画

CHAPTER2 パラアスリート自己紹介動画

WS ワorkshopの提案（参考例）

事前に障がいのある人に対して自分たちの持っているイメージについて話し合います。（多くの場合マイナスのイメージが出てくると思いますが、不自由・大変など）

これらの動画を見た後に、何を感じどんな発見があったかをグループでまとめ・発表します。

実際に動画を見て、自分たちのイメージと変化があったかを確認します。では、なぜ自分たちは、マイナスのイメージを持っていたのかを話し合います。

自由・不自由・権利・道徳・福祉等の特定の項目について話し合った場合も、ガンバ選手やパラアスリートの動画を見た後に、自由・不自由・権利などについて考えに変化があったかどうかを確認し、発表します。

【ガンバ大阪選手自己紹介動画とパラアスリート自己紹介動画の目的と意図】

障がい者と健常者の違いは、自分の足で歩けないなどの身体的な問題ではなく、社会環境が整備されていないことに起因していることを自ら発見することがこのワークの目的です。身体に障がいがあっても、人間としての義務も権利も全うできるような社会とはどんな社会か？ 障がいがあるから行けない場所があるとすれば、何が問題でどうすれば解決できるのか？

精神障がい者の問題などを例に挙げて、障がいとは何か？福祉とは何か？という部分の理解を深めていくことが出来ると思います。

CHAPTER 3 感覚過敏の人たちの見え方、聞こえ方の VR 動画

📖 目的

チェックシートで1と5が多かった人は、現象のあらわれ方としては違うが、似たような状況にある可能性もあり、過敏であることは特別なことではないことを理解するきっかけにします。

ワークショップの提案（参考例）

- ・自分達が、その立場であったらどう感じるか？
- ・このような人達の特性を生かせることが有る？

をグループで話し合い、発表します。

【感覚過敏の人たちの見え方、聞こえ方の VR 動画の目的と意図の補足】

（音楽家には聴覚過敏者が多い。アーティストには、視覚過敏者が多くいることを伝える。）一見欠点に見えることも、その特性を生かせれば、他の人に真似できない強みになることを認識させられます。

参考動画 全盲で自閉症の歌手 CODI LEE

<https://www.youtube.com/watch?v=85v6DC2343E>

自分の障がいをきっかけに起業した中学生社長
(株)クリスタルロード社長
<https://crystalroad.jp/>

CHAPTER 4 —— 見え方は違うの動画

📖 目的 —————

すべての人は見え方、考え方の違いがあることを知る

ワークショップ提案（参考例）

- (1) 動画の閲覧
- (2) 動画閲覧後のワークショップ

物事は、立ち位置や考え方など様々なことで見え方が違ってきます。
正しさではなく、違いを理解する一助となることを目的とします。

CHAPTER 5 未来を担うみなさんへ 宇佐美選手・昌子選手動画

📖 目的 —————

苦手なことと、得意なことがみんなあることを知る

ワークショップ提案（参考例）

日々の生活で、自分たちのマイナス面を考える癖があるかのチェック。どんな場所や場面でマイナスを見ているかを出し合う。

- ①自分が出来ない、苦手だと思っていることを人に伝えてみる。
- ②周囲の人の良いところを発見する。

【未来を担うみなさんへの目的と意図の補足】

これらのワークの目的は、人は誰もが不完全な存在であり、それを恥じる必要はないことを理解・認識することです。また、自分の気づいていない良いところを人に発見してもらうことで、自己肯定感につなげることができます。人に助けられて自分の弱点・苦手を克服できた人は、他の人の助けも容易に出来ます。自分の生活の中で少しだけ他者の役に立つことが出来る人材育成につながります。自分の不完全さが、実はノビシロであり可能性であることに気づくことを目的の一つとします。

今までは、ボランティアというと、力仕事やごみ拾いなど時間とエネルギーがあれば出来ることを意味していました。20世紀終盤から、欧米では「プロボノ」というボランティアの形態が非常に増えてきています。職業上知った知識や情報をボランティアとして活用することを意味し、医師・弁護士・会計士・教師等様々な職業の人がプロボノワーカーとしてボランティアを行っています。昌子選手のサッカーで人の役に立つ、というのはプロボノの基本です。

社会はどんどん変容しています。様々な人がいてこそ社会であり、その基本の考え方を子ども時代に身につけ、さらに変化し続ける社会に適應できる大人になるために、この時期に考えて頂きたいことを、この動画にまとめました。

(以下のチャプターは、先生向けの解説動画になります。)

チャプター6 共生社会実現のための多様性を理解する

(関西学院大学 丹羽教授)

チャプター7 配慮や支援が必要な子どもの理解と対処方法

(関西学院大学 丹羽教授)

発行 池田市教育委員会
製作 NPO 法人パラキャン
協力 関西学院大学 丹羽登教授
(株) TREASURNEY